

JUST NOW JATS

CHALLENGE FOR THE FUTURE!

2014-3 No.23

TOPICS

- サマースクール2013..... 1～2面
- 第1回理事会ニュース..... 2面
- 施設便り..... 3面
- 第67回学術集会情報・正会員申請案内..... 3面
- 第42回日本血管外科学会学術総会... 4面


 特定非営利活動法人 日本胸部外科学会
The Japanese Association for Thoracic Surgery

呼吸器外科

サマースクール

in神戸

7月20・21日



呼吸器外科

心臓血管外科

サマースクール
2013

開催報告

Summer School

2013年度も多くの若い諸君が参加し好評のうちに終了いたしました。

心臓血管外科サマースクールは8月24、25日、神奈川県の特モプラネックスにて行い、参加者107名(医学生49名、研修医58名)で、43名のインストラクターのもとウェットラボを中心とした実習を行いました。ウェットラボでは、学生は基本手技、大動脈吻合、ASD閉鎖、僧帽弁置換術、研修医は大動脈吻合、僧帽弁形成術、大動脈弁置換術、CABGを行いました。恒例の大懇親会では種々の出し物などで大いに盛り上がりしました。翌日は模擬手術ライブデモとして冠動脈バイパス術と大動脈弁置換術を見学しました。

呼吸器外科サマースクールは7月20、21日神戸医療機器開発センター、ニチイ学館神戸ポートアイランドセンターにて開催し、参加者は99名(医学生44名、研修医55名)で、36名のインストラクターが受講生の指導に当たりました。アニマルラボは胚葉切除、開胸・閉胸にわかれた実習、ティッシュラボでは摘出心肺ブロックを用いた肺葉切除、気管吻合、豚皮を用いた皮膚縫合等の実習を行いました。2日目は胸腔鏡手術のドライラボに取り組みました。技術コンテストでは自身の技術の評価を受けると共に、賞品がかかっていたこともあり、大いに盛り上がりしました。【研究・教育委員会 委員長 松居喜郎】



■この度、呼吸器外科サマースクール2013に参加させていただきました。大学では呼吸器外科を志す学生がほとんどいないので100名の呼吸器外科に興味のある研修医や学生と会うことができるのを楽しみにしていました。開胸の手術は何度か見学

させていたいただいたことはありますが、実際に行くことは初めてで、大変良い経験をさせていただきました。助手の動きがいかに重要であるかを教えていただきましたし、また、普段指導して下さる先生方の手技もすぐには到底習得できない、奥深いものである事も分かり、とても有意義な時間でした。その後行った摘出心肺の肺葉切除は、今回のプログラムの中で一番楽しみにしていたことだったので最後まで夢中でした。ペアを組んでいただいた方も大変良い方で非常にやりやすく、先生も丁寧に指導くださり、勉強になりました。また、2日目の女性医師の先生によるご講演も大変

参考になりました。呼吸器に限らず、外科を目指す女性にとつて家庭や子育てとの両立は一番不安に感じているところだと思います。しかし、大学に外科の女医さんがいなかったり、未婚であったり、経験談を聞く機会はありません。その話を自身の経験を踏まえてお話し下さり、女性だからと言って外科を諦めなくても両立にむけて努力することが可能な科であることを教えていただきました。ありがとうございます。2日間を終え、同じ志を持った友達もでき、全国の指導熱心な先生方にも出会うことができ、本当に素晴らしい経験ができました。お忙しい中、開催・運営



をして下さいました聖隷三方原病院の先生及び事務の方々、インストラクターとして参加してくださった先生方、大学から引率してくださった先生には大変感謝しております。ありがとうございます。(学生6年生)

■今年で3度目の開催となった呼吸器外科サマースクールですが、私は昨年も参加させていただいたため、今回は2度目の参加となりました。学生対象のベーシックコースでは、全身麻酔下のブタの開胸・閉胸、ブタの皮膚縫合、ブタの摘出心肺を用いた肺葉切除・気管形成、胸腔鏡下手術のト

レーニングと大きく分けて4つのプログラムで構成されており、全てが外科を志望する学生にとって魅力的なものでした。また、胸腔鏡下手術のトレーニングプログラムの導入、テキストの再編、及び実習時間枠の拡大など昨年と変更された点も多く、昨年とは一味違った実習を楽しむことができました。当日は2年生から6年生までの多くの学生が北は北海道、南は沖縄から集まりました。実習は他大学の学生とグループになって進められるため、顔合わせ時には緊張している感じが否めませんでしたが、そこは同じ道を志望する者同士、いざ実習が始まるとすぐに打ち解け、フォローし合いながら円滑に実習を進めることができました。そして、夜の懇親会では他グループの学生だけではなく、研修医の先生方やインストラクターの先生方を交えてお話しさせていただきました。呼吸器外科の素晴らしさを改めて実感するとともに自らが進もうとしている道は間違っていないということを確信しました。2日間と短い間でしたが、同じ志を持った多くの仲間や尊敬する先生方との出会いがあり、非常に有意義な時間を過ごすことができましたと思います。今回お会いできた方々と数年後、学会などで再会できる事を心待ちにしております。また、サマースクール参加にあつ

心臓血管外科

サマースクール

in神奈川

8月24・25日



って、大学や学年による垣根は一切感じられませんでした。ですので、今回参加をためらってしまった方も是非来年のサマースクールに参加し、呼吸器外科の素晴らしい世界に足を踏み入れてみてください。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えて下さった日本呼吸器外科学会様、日本胸部外科学会様、インストラクターの先生方、ならびに関係者の皆様に心より御礼申し上げます。(学生6年生)

■普段できない経験を立派な先生や施設のもと、させていただきありがとうございました。ウェットラボは2人で1つの心臓を使わせて頂き、4人に1人立派な

■初日の手技がとても楽しかったです。全体としては普段の大学の講義では聴けないような内容を他大学の先生から聞くことができましたので、心外に対するイメージが少し変わったように感じます。とにかく楽しかったです。ありがとうございます。(学生6年生)



2013/0

■とても充実した2日間であったと思います。多くの心臓血管外科の先生とお話しさせていただく機会があり、とても勉強になりました。また、他大学の学生とも知り合えたことは、大変良い刺激になりました。内容は座学では学べないようなものばかり

りで、少々時間に余裕がなく
て残念でしたがウェットラ
ボをあれほど長時間楽しめ
たのは本当に来て良かった
と思います。

もっと先生方とお話して
きる時間があれば、もっと
良い時間をすごせると思っ
たので、次回からは改善して
欲しいと思いました。

本当に2日間ありがとうございました。
（学生6年生）

■基本的な手技をまず教え
ていただき、大変勉強にな
りました。また、様々な学
生と話す機会があり、同世
代の人と悩んでいることを
相談できたり、モチベーシ
ョンがみんな高かったのも
良い刺激を受けました。あ
らためて心臓血管外科医に
なりたいと思いました。

（研修医1年目）
■想像していたよりもとて
も充実し、楽しい時間を過
ごすことができました。

1日目のウェットラボは
時間を忘れるほどでした。
長い時間を取っていただい
たということですが、自分
はまだまだ触っていたと思
いました。

2日目のライブデモでは
基本的なことまで解説して
いただき、とてもわかりや
すかったです。普段の研修
では術者をはじめ、先生方
は集中してこと細かに教え
てもらったことは殆どできま
せん（病院にもよるかと思
います）。ですので、こ
のような場で大変有名な先
生方に手術を説明していた
だけたのはとても勉強にな
りました。

また、最後に講演いただ
いた将来の心臓血管外科の
展開の話題は非常に興味深
く、今後の自分の行く末に
も大きな影響があると感じ
ました。

全体を通して、これだけ
の先生方が僕らのような未
熟なものの達に優しく楽し
く指導していただけたのが
とても素晴らしいと思っ
ています。またさらなる発展
を祈っています。来年も参
加できたら嬉しいです。

（研修医1年目）
■ウェットラボで実際にC
ABGやAVR、MVPを
させていただくことができ
、とても勉強になりました。

自分で実際にすること
で、自分として気をつけるこ
とがわかりました。また、同
じ志を持つ同年代と語りあ
えたことはとても良い経験
でした。先生方、関係者の
方々本当にありがとうございました。

いました。（研修医1年目）
■ウェットラボで細かい技
術まで指導していただけた
ことが非常に勉強になっ
た。各レクチャーも最先端
の知識から心臓外科医とし
てのキャリアプランニング
まで、今後の人生設計の参
考となった。

自分は学生の頃から心臓
外科に進みたいと思ってい
て、ポリクリの時から大学
の心臓外科の先生方にはお
世話になっていたが、大学
の先生方がこのサマースク
ールに関わっていなかった
から、このスクールの存在
を全く知らなかった。

今回、偶然サマースク
ールを知り、参加すること
ができたが、もっと参加でき
たらと良かったと思うの
で、学生、研修医にもっと
大々的にインフォメーショ
ンしてもらえたら嬉しい。

（研修医2年目）

第1回理事会ニュース

日本胸部外科学会第1回理事会

2013年11月25日（月）13:00～15:00

1. 各種委員会委員承認、 報告及び協議事項

- （1）各種委員会委員承認
2014委員会委員名簿
（案）が提出された。若干の
変更後、承認された。
- （2）選挙管理委員会
有権者名簿の確定、異議申
し立て処理、今後の日程につ
いて報告された。異議申し立
て処理後の各地区別及び専門

分野別有権者数をもとに、各
地区別及び専門分野別選挙評
議員定数の委員長案が説明さ
れた。検討の結果、北海道地
区の食・他は比例配分通り0
名、近畿地区の心臓分野は32
名とすることで承認された。
なお、北海道地区の食・他の
1名は推薦評議員として選出
する。

- （3）会誌編集委員会
会誌編集委員会委員はIF

今年も開催します！

呼吸器外科サマースクール

▶2014年7月19日（土）・20日（日）▶神戸医療機器開発センター（MEDDEC）

心臓血管外科サマースクール

▶2014年8月23日（土）・24日（日）▶神戸医療機器開発センター（MEDDEC）

（2014年2月3日現在 予定）

タが必要かの依頼を受け学術
委員会にてデータ内容を検討
し、その解析費用は応募者の
負担となることが確認された。

（5）学術集会委員会

1）学術集会ガイドライン
他学会のガイドラインを参
考に会長裁量の部分を考慮し
ながら適切なガイドラインを
作成する。

（2）学術集会委員名簿

関連学会（食道学会、呼吸
器外科学会、心臓血管外科学
会、血管外科学会）の会長等
を含む委員名簿が承認され
た。

（3）第66回学術集会アンケ ート結果

学術集会主催者側による学
術集会運営会社の評価は3・
8、学術集会委員会委員によ
る学術集会運営会社の評価は
3・9であった。参加者によ
る学術集会アンケートの集計
結果は、回答者470名で
16%と昨年より約10%低かつ
た。次年度からは学術集会参
加者に終了後、直接一斉メー
ルで発送し、期日を設けて回
答する形式にすることが承認
された。また、本年は抄録集
をMS Wordなどを利用し
Web掲載し好評であった。

今後は日程プログラム集を早
めに発行した上で抄録集の発
行は止める提案が出された
が、紙媒体の抄録集を残した
方がいいとの意見もあり、再
度の検討が必要である。

（4）第67回定期学術集会

会期は、2014年9月30
日（火）～10月3日（金）ま
で福岡国際会議場及び福岡
サンパレス&ホールで開催予
定である。

（6）財務委員会

2014年間スケジュール
ル、委員会検討事項（会員管
理システムの構築・PCハ
ード面の支出を予定、積立預
金の具体的用途内容を検討、
篠田副理事長をオブザーバー

（4）学術委員会

学術調査データを用いた学
術研究の公募は、23件が採用
され、応募者からどんなデー

として委員に追加する。

（7）倫理・安全管理委員会

第67回定期学術集会におけ
る医療安全講習会の企画、ラ
イブ手術ガイドライン改訂版
の検討、安全管理に関する情
報発信、医道審議会の行政処
分への対応、日本医療安全調
査機構との協力、助言医師（鑑
定人）依頼への対応などを検
討予定である。

（8）専門医制度委員会

1）本会専門医制度委員会
構成3分野の専門医制度と
の連携推進として、1）修練
プログラムにおける胸部外科
関連分野横断的カリキュラム
2）学術集会における各種セ
ミナーの共同開催 3）修練
施設、専門医の質の評価 4）
新専門医制度への第三者委員
会への意見発信 5）委員に
対するアンケート調査の実施
が活動予定である。

（2）呼吸器外科専門医合同 委員

定期学術集会中に開催され
た専門医合同委員会の議事録
に基づき、書類審査結果、N
CDを利用した専門医申請、
日本呼吸器外科学会認定登録
医申請に際しての「医療安全
に関する研修基準」、新専門
医制度でのプログラムなど報
告された。なお、プログラム
構築に関する問題点は、初期
研修制度とプログラム化され
た専攻医の研修システムの摩
擦があるが、プログラムを作
成するための委員会を設置
し、たたき台を作成する予定
である。

（9）研究・教育委員会

1）サマースクール2014
呼吸器サマースクールは本
年と同様、神戸医療機器開発
センターで開催予定
心臓血管サマースクールは
呼吸器と同様、神戸医療機器
開発センターで開催予定で
Web上の時間を延長し、今
後は日本血管外科学会も共催

する予定である。収支報告書
が提出され、35万円の赤字は
日本心臓血管外科学会が補填
する。

（2）3学会合同PGC委員会

現状維持で進めることと
し、2014年9月の本会P
GCは、AATS及びEAC
TSとの関係からも本年度中
に枠組みを決定（3年）予定
である。

（3）第66回PGCの収支決 算について

前回理事会で、今回のシス
テム費（約200万円）の詳
細について疑義がだされ、今
回は更に台風の影響で受講者
が減少し、PGC単独では現
時点でも450万程の赤字に
なることが予想される。企画
運営は、本委員会でも実施し
収支については学会側（会長
側）でできないかとの要望が
だされた。本委員会はプログ
ラムだけを決める方向で、本
会委員長、財務委員長及び学
術集会委員長とで相談して今
後、どうするかを決定する。

（10）定款改訂委員会

NPO法の改訂に伴い、
本会定款の改訂を2014年
度に行う予定である。

（11）総務・渉外委員会

2016年以降の3年間の
学術集会運営会社の選定を行
う時期となり、5社から予算
書が提出され、選考の結果、
2社が選出された。今後は、
各社にPGCを含めた予算書
を提出してもらい、本委員会
で事前プレゼンを実施し、最
最終的に第2回理事会でプレ
ゼンの上、決定する。

（12）COI委員会

本会臨床研究のCOIに関
する指針において、日本医学
会から提出された医学研究の
COIマネージメントに関す
るガイドラインを参考に精査
し、改訂すべき文言は検討す
る。

（13）補助人工心臓治療関連学 会協議会

実施施設・実施医の更新認
定基準及び植込型補助人工心
臓管理施設認定基準につい
て、学会理事会での承認を求
められており、検討した。実
施医の更新条件がかなり厳し
くなっているが、12月17日
までに各理事から意見を求め
ることとした。

（14）広報（Homepage-Internet） 委員会

Homepage（リニユーアル
作業の継続と会員専用ページ
の充実）の検討、Newsletter
の年間計画（案）及びWebの
掲載内容が報告された。

3. その他

（1）日本外科学会専門医 制度資料

専門医育成は研修プログラ
ムを基盤に行うことを理念と
した第三者機関「日本専門医
機構（仮称）」の創設に向け
た準備が進められている。そ
の基本となる研修プログラム
を整備するに当たり、専門医
制度指針及び研修プログラム
整備指針をもとに作成した
「外科専門医制度研修プログ
ラム整備指針（案）」が報告
された。

外科専門医のカリキュラム
を5年で習得するようなプロ
グラムで、ただし、初期臨床
研修で救急・外科を6カ月以
上履修した者は4年間（1年
短縮）、1年以上履修した者
は3年間（2年短縮）とする
内容である。

（2）経力テータル的大動 脈弁置換術関連学会（TAVR） 協議会報告

実施状況、合併症、実施施
設認定状況、問題点が報告さ
れた。

施設便り



北海道

北海道大学病院 循環器・呼吸器外科

北海道大学病院はJR札幌駅北側の徒歩圏内、北海道大学の広大なキャンパス内にあり、病院の建物を出ればすぐに大学構内の四季折々の自然を満喫できる。立地に恵まれた病院です。また1921年設立で数年後には100周年の節目を迎える歴史ある病院でもあります。国立大学病院としてこれまでに地域への医療貢献の中心的役割を果たすと共に、教育・研究の拠点として優れた人材を輩出してきました。

循環器・呼吸器外科は旧第二外科から独立し開設された診療科で、1990年に循環器外科が開設、20

12年には呼吸器外科が独立統合されて現在の形態となりました。初代教授は安田慶秀先生が務められ、現在は2006年に就任した松居喜郎教授が主任教授として循環器外科を率い、呼吸器外科は加賀基知三診療教授を中心に診療を行っています。

循環器外科では新生児を含む小児先天性心疾患から後天性心疾患、大動脈疾患や末梢血管疾患まで幅広く治療を行っています。研究主題は重症心不全の外科治療であり、これまで重症心不全に対する外科治療（左室形成術）や機能性僧帽弁閉鎖不全症に対する外科治療に積極的に取り組み、その成果を国内外に発信してきました。2010年には心臓移植実施施設に認定され、翌2011年には埋込型補助人工心臓実施施設の認定を受けました。

一方、呼吸器外科は早い時期から胸腔鏡手術に着手し、わが国における低侵襲手術の先駆的な役割を果たしてきました。また、進行肺癌に対する拡大手術や集学的治療としての手術にも積極的に取り組み、「早い時期の肺癌には呼吸機能を温存した区域切除などの縮小手術および胸腔鏡を用いたより低侵襲な手術を追求」と「進行した肺癌には化学療法、放射線療法と組み合わせた外科切除の安全性の確保と治療成績の向上を診療、研究の2本柱としています。

本稿執筆時、まだ心移植は行っておりませんが、待機患者は10名を越えており医局一丸となって準備を進めている段階です。また2012年にハイブリッド手術室が導入され、大動脈瘤に対するステントグラフト治療やTAVRの環境も整っています。

地域特性上、関連病院数は北海道内外を含め循環器23施設、呼吸器15施設と多く、毎年2回全体で研究会を開催するとともに、普段から診療上の連携をとりあつてグループ全体での治療成績の向上に努めています。また、教室の対外的な活動としては、2011年より心臓血管外科サマースクール事務局を務めると共に、2012年には重症心不全外科研究会が発足



し、その事務局を担当しています。人口構造の劇的な変化と共に大学病院のあり方も問われるこれからの時代、関連病院を含めたグループとして地域に密着した優れた医療を提供するとともに、大学病院として若い医師を

育て北の大地から診療および研究成果を全国、世界へ発信していくことを目指しています。

北海道大学大学院医学研究科 外科学講座 循環器・呼吸器外科 若狭哲

岡山県

倉敷中央病院

倉敷中央病院は大正12年に大原孫三郎により創立され、昨年90周年を迎えました。病院建設に当たり、「治療本位（研究目的でない、真に患者のための治療）」「病院くさくない明るい病院」「東洋一の理想的な病院」という3つの方針が打ち立てられたそうですが、この理念がいまもしっかり病院に根付いています。病院内は明るく、日中はたくさん

心臓血管外科は現在、ス



スタッフ3名、専修医4名、公募シニアレジデント5名の12名、2チーム体制で診療を行なっています。当院でのチーム医療を簡単に紹介します。

①主治医の裁量を削減し、毎朝夕のチームカンファレンスで治療方針を決定する②リーダー（サブリーダー）が中心となり、チーム内の仕事の段取りを行う③緊急手術は隔日で分担し、定期的な休養が得られる心臓血管外科の手術数は年間900例以上ですが、そのうち約半数が心臓大血管手術で、残りの半数が末梢血管の手術や内シャントの手術です。疾患内訳としては、冠動脈バイパス症例が年間120例、弁膜疾患が150例、大動脈疾患が200例です。弁膜症は大動脈弁についても形成術を積極的にを行っています。高性能のCT（Siemens Somatom）および解析ソフト（Syngo via）導入により、鮮明な大動脈弁画像を術前に分析できるようになったことが、大きな進歩と考えています。大動脈瘤については年間80例のステントグラフトを取り入れています



が、治療方針については術前カンファレンスで熟慮の上、決定します。特筆すべきは、昨年に認可されたTAVR（経皮的動脈弁置換術）の認定施設となったことです。循環器内科と合同のTAVRチームで30例以上のTAVRを施行してきました。内シャント手術が年間250例あるのも大きな特徴で、レジデントにとっては血管吻合技術の修練に貢献しています。

公募シニアレジデントは、現在までに全国から20名を採用しています。当院はもとよりシニアレジデントに大きく依存した体制です。必然的に研修医の教育を充実させる必要があります。専門医取得に必要な手術手技修練プログラムに加えて学会発表、論文作成等のアカデミックワークの指導体制についてはGTC S掲載の論文をご参照ください。

岡山県、倉敷市は都会ではありませんが、気候温暖ですごくやすく、ブドウや桃の高級種も安く手に入り、

瀬戸内の海の幸も楽しめます。近くに歓楽施設がない分、臨床、研究に専念しやすい環境ともいえます。見学等はいつでも歓迎です。

倉敷中央病院心臓血管外科 主任部長 小宮達彦

正会員申請について

2014年4月30日(水)
2014年6月15日(日)まで
2014年6月20日(金)まで
2014年7月1日(火)まで
2014年7月15日(火)まで
2014年8月1日(金)まで

正会員申請締め切り日
委員会による審査かつ結果を理事会に報告
不合格者への結果連絡
不合格者からの異議申し立て
異議申し立て者に結果を通知
合格者に正会員委嘱通知
(申請条件等は学会ホームページをご覧ください。)



第67回 The 67th Annual Scientific Meeting of The Japanese Association for Thoracic Surgery 日本胸部外科学会 定期学術集会

会期：2014年9月30日(火)～10月3日(金)
(30日(火) Postgraduate Course)

会場：福岡国際会議場
福岡サンパレスホテル&ホール

会長：富永 隆治
(九州大学大学院医学研究院循環器外科学講座 教授)

テーマ：Noblesse Oblige ―先進医療とその検証―

演題登録期間：
2014年2月13日(木)～4月15日(火) 正午
※公募プログラムなど詳細は学術集会HPをご覧ください。

事務局

第67回日本胸部外科学会定期学術集会 事務局
九州大学大学院医学研究院循環器外科学講座
TEL：092-642-5557 / FAX：092-642-5566

第67回日本胸部外科学会定期学術集会 運営事務局
(株)コングレ九州支社内
TEL：092-716-7116 / FAX：092-716-7143
E-mail：jats67@congre.co.jp
URL：http://www.congre.co.jp/jats67/

第42回

日本血管外科学会学術総会について

福田 幾夫（弘前大学大学院医学研究科胸部心臓血管外科学講座教授）

【会期】 2014年5月21日（水）～23日（金）
【会場】 リンクスステーションホール青森（青森市文化会館）・ホテル青森

第42回日本血管外科学会学術総会を平成26年5月21日から23日まで、青森市で開催します。今回のテーマは「Partnership」とともに歩む血管外科」としました。最近の血管外科手術の進歩は著しく、大動脈外科領域ではステントグラフトの応用範囲が広がり、手術体系が大きく変化しました。末梢血管外科領域でも血管内治療により、腸骨動脈領域のバイパス手術はすっかり少なくなりました。一方で大動脈基部～弓部大動脈胸腹部大動脈領域の大動脈瘤の治療や足の末梢バイパスは open surgery が主体で、この領域での侵襲を減

らす努力はまだ必要です。「ヒトは血管とともに老いる」といわれ、血管外科手術は、虚血性心疾患、腎機能、脳血管障害など全身の動脈硬化性病变に対する配慮と、患者さんを中心にしたさまざまな診療科、医療職が協力をして治療にあたる必要があります。患者―医師間のパートナーシップとともに、医療従事者間のパートナーシップの重要性も増えています。進歩著しい最近の10年間に蓄積してきた経験を、新たなエビデンスとして共有してゆくとが学術集会の目的と考え、サブテーマとして「情熱・経験・エビデンス」を掲



「情熱・経験・エビデンス」を掲げさせていただき、シンポジウムでは、「重症虚血性大動脈解離における臓器灌流障害」を「広範囲胸部



福田 幾夫
弘前大学大学院医学研究科胸部心臓血管外科学講座 教授
1979年 千葉大学医学部卒業
筑波大学循環器外科レジデント、国立循環器病センター心臓血管外科レジデント
1985年 筑波メディカルセンター病院心臓血管外科科長
2001年 弘前大学外科学第一講座（現胸部心臓血管外科学講座）教授
趣味：読書と音楽
好きな言葉：医者はよるべなき病者の友

大動脈瘤の手術戦略」「肺塞栓症に対する治療」「足関節レベルへのバイパス術のこつ」「EVAR、TEVARのトラブルシューティング」を取り上げます。パネルディスカッションでも「血管内治療時代の血管外科医養成プログラム」「虚血性心疾患を合併した重症虚血肢の治療選択」など、最新のトピックについて幅広く討論したいと思っております。海外からの招待講演者には、討論者としても

参加していただくようお願いしております。

5月の青森は、十和田湖、奥入瀬渓谷の新緑が目まぶしく、点在する温泉などで自然にたつぷりと触れる

ことができます。ねぶた祭り体験施設や、県立美術館の棟方志功の版画・シャガールの舞台画・三内丸山遺跡も見ものです。学会の合間に、青森の自然と文化・

食に触れていただければ幸いです。皆様に楽しんでもらうために教室員一同、力をあわせて準備をすすめています。

編集後記

理化学研究所発生・再生科学総合研究センター・細胞リプログラミング研究ユニットリーダー、小保方晴子さんが分化多能STAP細胞を作製する方法を確立し、世界の注目を浴びています。Sox2では間もなく冬季オリンピックが開幕し、高梨沙羅、浅田真央、羽生結弦など日本人選手の活躍が期待されます。

JUST NOW JATS No.23は昨年開催された心臓血管外科サマースクール、呼吸器外科サマースクールの報告と参加者の声が掲載され、学生、研修医にとって、講義だけでなくマンツーマンの実技指導で直接、第一線で活躍する先輩医師の話を聞けたことがいかに有意義であったかが、熱気とともに伝わってきました。

北海道大学病院循環器・呼吸器外科、倉敷中央病院からの施設便り、福田幾夫先生から本年5月21日から青森市で開催される第42回日本血管外科学会学術総会の案内が掲載されています。

もう一つ、過去の定期学術集会のPostgraduate Courseに参加できなかった方に、テキスト販売のお知らせです。

在庫が限られているので希望される方はお早めに事務局へ確認メールをしてください。

第67回日本胸部外科学会定期学術集会は9月30日から10月3日まで福岡国際会議場で開催されます。演題締め切りは4月15日です。どうぞお忘れなく。



広報委員会副委員長
丹黒 章
（徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 胸部・内分泌・腫瘍分野教授 徳島大学病院 副院長）
1981年 徳島大学卒業後山口大学第二外科入局食道外科医を目指す。
1986年 山口大学医学部助手。
1989年 米国アーカンソー大学客員助教
1996年 山口大学医学部講師、1998年助教授
2004年 徳島大学大学院教授
2012年 徳島大学病院副院長
趣味：テニス、阿波踊り 好きな言葉：敬天愛人

JATS NEWSLETTER No.23
23 JUST NOW JATS
2014年3月10日発行

発行 ● 特定非営利活動法人 日本胸部外科学会
〒112-0004 東京都文京区後楽 2-3-27 テラル後楽ビル 1F
TEL ● 03-3812-4253 FAX ● 03-3816-4560
URL ● <http://www.jpats.org/>

編集 ● 日本胸部外科学会 広報委員会
E-mail ● jats-adm@umin.ac.jp

デザイン・制作 ● 株式会社 杏林舎